

2005年6月23日(木)

松井 一美氏 (杏林大学大学院国際協力研究科) をゼミにお迎えして

急成長を続けるロシア経済

3年 中村 勇介

ロシアの大学で2年間日本語の教師をしていた松井一美さんから急成長を続けるロシアの現状について3つの事を学んだ。1.ロシアでの生活 2.ロシアの概要 3.ロシア経済である。

1.ロシアの気候は日本と比べ寒く冬はマイナス40にもなるのだ。川は凍り4月から10月の雪解けの季節になると氷が溶けそこに川があったことを知るのだ。ロシアの大学教員の給与は約300ドルで日本と比べ随分安いように思われるが現地の人が暮らすうえでは問題はないのである。日本人はお金持ちとの印象があり特に日本人男性はロシアではモテるようだ。冬の長いロシアの庶民的な娯楽はクラシック鑑賞だ、日本は四季があり娯楽も多種多様だ、その中でクラシック鑑賞は少数派である。

2.ロシアの歴史はペレストロイカにより民主主義圧力が高まり共和主義体制を破綻させソ連崩壊後、社会主義思想から民主主義思想へ大きな転換を向かえたのだ。この頃に現在のロシアの貧富の差を生んだ出来事が起こるのである、一部の官僚がソ連崩壊後に便乗し国の資産を自分の物としたのだ、そして激しいインフレがロシアを襲い、インフレの影響を受けない土地や物を持っていた官僚が生き残り一般市民は無一文となったのだ、松井さんの話を聞いて一般市民に避けることが出来なかった点は悲劇である。

3.ロシア経済は現在急成長をとげようとしているのだ、そのことに気づきみちのく銀行が日本でいち早くロシアに投資をおこなっている、ロシアはBRICS(新興経済国群)のRであり2035年にはBRICSの経済規模はG7を超える予想となっている、このことからみちのく銀行のロシア投資は賢い投資だったといえるのである。

ロシアは世界1位の国土と豊富な資源を持ち急成長をとげている、日本はみちのく銀行を手本として積極的にロシア投資をおこなうことが日本の国益につながり重要である。

ロシアの素顔

~ ゲストスピーカー・松井一美さんを迎えて ~

3年 三宅 辰典

ロシアという国は世界で一番の面積を持っていて、そして美女が多いというイメージしか正直持っていなかった。ロシアについて深く考えたことはなく、まったく未知数であったが、松井さんの実体験や、ロシアの風景を、写真を使ってわかりやすく説明して下さったおかげで、ロシアについてとても興味が沸いた。そこで、特に自分が興味を持ったことを三点にしぼってみた。

(1) 気候

私は生まれも育ちも九州の長崎県で、比較的温暖な気候のもとで育ったので、マイナスという気温はあまり経験したことがなかった。数字でマイナス 40 と言われてもあまりピンとはこなかったが、寒さによる水道管の破裂、断水の問題を聞いて驚いた。トイレで用を足している時に断水されると正直困ってしまう。トイレに、流し専用の予備タンクを置いてあるというのは、その土地の慣習がでていてたいへんおもしろいと思った。

(2) メディア

ロシアでは日本と違い、暴力的な映像・残酷な映像を、修正することなくニュースで放送するということを聞いて、まったく信じられなかった。プライバシーの権利や、子供の教育上の問題に悪影響だと感じた。しかし、ここで悪影響だと感じたことは、自分が日本を基準にして考えているからかもしれない。日本ではありえないことだが、ロシアではごくふつうのことである。そう考えると、基準というものはないのかもしれない。それでも初めてロシアを訪れた日本人は、このようなニュースを見たらたいへん驚くだろう。

(3) 日本人は危ない

ロシアのある地域では、日本人はお金をたくさんもっているイメージが強く、狙われやすいので危険だということがわかって、正直恐怖を感じた。やはり日本人は、どこへ行っても狙われる運命なのだろうか。自分も日本人である以上、海外を旅する際には前もってその国の治安状態を調べて、なおかつ警戒心を強く持って行動したい。

考察

松井さんのお話を伺った後、ロシア以外にもたくさんの国の文化に触れてみたい、そう思った。そこでもっとも重要なことは、直接現地に行ってみることだ。直接自分の肌で感じて、そして経験を重ねることで自分自身も大きく成長できるのではないかと思う。幸運なことに菅原ゼミでは、海外での経験を積むための機会が設けられている。この貴重な機会を十分に使って、またひとつ変わった自分に出会いたいと思う。

ロシアの展望

3年 高野 渉

私がロシアの話聞いて感じたことは3つある。

- 1 大きい
- 2 寒い
- 3 危ない

- 1 ソビエト連邦からロシアに生まれ変わって、政治的にあの広大な大地をどう考えているのか疑問だった。狭くしたほうが国としてうまく機能するのではないだろうか。これは私が日本という小さな島国で育ったから思うのであり、世界に視野を向けるのにいい機会だとかんじた。また、マイナス面で、国の中での経済格差が、広すぎるゆえにホームレスや下水処理など多岐にわたり問題があ

った。広すぎて対応が追いつかないのだろうか。プラスの面でいうと、これは私の考えだが、ロシア出身テニスのシャラポワや陸上のセルゲイ・ブブカなどの偉大なスポーツ選手が現れるのは国が広いからだと思う。アメリカや中国もスポーツ界で数多くのスター選手を輩出しており、ロシア・アメリカ・中国で共通しているのは、国土が大きいということだ。以上が私が大きいと感じたことである。

- 2 ロシアは国全体が北に位置しているので、気温が低いのは誰でも想像がつくがまさか冬にマイナス40度にも達するのに驚いたのと、酒を飲み体の内側から温めると聞いて、モンゴルを思い出した。極端に寒い地域では酒で体を温めるのが主流だと感じ、また、その寒さゆえ積雪も尋常でなく、移動手段としてスキー板で移動することが大量積雪地域特有であると感じた。雪解け後、若者の遊びはバイクで走りまわることらしいが危険である。ロシアの車は盗難車のような危ない車で、窓が割れたまま走っていたり整備不良だと知った。さすがに窓がないと寒い。
- 3 ここで危ないというのは、2つの意味がある。まず治安が悪い。佐渡から直行便で一番近いところがあると聞いたが、そこは治安が悪いらしくゼミ合宿候補には挙げられないのが残念だった。もうひとつは水道から水が出なくなることだ。衛生面で危ないと感じた。

考察

この話を聞いて私は世界の広さを再認識し、ゼミ合宿は発展途上国に行きたいという強い思いがうまれた。また、世界を相手にしている人の話はとても参考になった。そして参考のまま終わらせないためには、3月予定しているフィリピン合宿で文化や暮らしなど日本と違うところを吸収し、知識を蓄えどんどん自分を高めていきたい。

文化の違い

0710310435 3年

和田 晃

松井さんのロシアの話聞いて思ったことは3つある。

- 1、日本人は目をつけられる
- 2、非常にロシアは寒い
- 3、国民よりも国

1、日本人は目をつけられる

ロシアは日本に比べるととても貧しい。大学教授でも月3万円しかもらえない。タクシーはフロントガラスにヒビが入っている、ミラーがとれているのは当たり前、大人、子供は物乞いが職業といってもいいくらいである。そこまで貧しい国なので、日本人はお金を持っているイメージがあり、ロシア在住の日本人が殺されてパソコンや金品を持っていかれた事件があり、ロシアは治安の悪い国だと思った。

2、非常にロシアは寒い

ロシアは11月から12月くらいが一番寒くて、マイナス40度くらいになる。「はぁっ」と服に息を

かけると、服に白く凍ってはりつくくらいであるため、息も大きく吸えないので内から暖めるためにお酒は常に飲んでいる。このような体験は日本では体感できないので一度ロシアにいったみたい。

3、国民よりも国

ある事件で劇場を乗っ取ったテロがあった。人質も 100 人以上いて、日本なら人質を優先するところが、ロシアはテロに屈しないと言うことで、強行突入してテロ行為をおさえたが、その代償は大きく 100 人以上の死者がでた。日本なら訴えれば小泉首相は間違いなく首であるが、ロシアはそれが通らない。日本は国民優先、ロシアは国優先、日本とロシアの一番の違いはここであると思った。

考察

治安のいいところで育った私はこの話を聞いて、発展途上国は危ないイメージがついた。だが、日本では経験できない貴重な体験があるのも発展途上国の魅力であると思う。日本という殻に閉じこもっていないで、その殻を破って外の世界をみれば、自分の視野、考えが変わると自分は信じているので、一度発展途上国に足を踏み入れてみたい。

極寒と日本へのイメージが生んだ悲劇

玉城 貴洋

私がロシアについてこれまで知っていたことは、寒い、面積世界一、プーチン大統領、といった抽象的なものばかりだ。しかし、松井さんの話を聞いて、ロシアの中の生活を知ることができたのである。

まず、寒いところである。これは冒頭でも述べたように知っていたことだ。しかし、-40 になることもあるとは想像以上だと感じたのである。私は、寒くても -2、3 を数回経験したことがあるだけだ。その約 20 倍の寒さで、息を吐けば凍ってしまうと言うのには本当に驚かされたのだ。温帯の日本にいる私にとっては、四季がないのも信じられないが、世界にはそういう場所が多くあるし、世界が日本を中心に回っていることはないと当然のことながら改めて認識させられたのである。

次に治安が悪いところである。例を挙げると、一人の日本人教師が殺されたという出来事があったことだ。「お金を持っている日本人」、この外国にある一つの定義とも言える誤解が生んだ悲劇と私は考えたのである。確かに、日本は世界から見れば先進国であり、お金を持っていると思われるのかもしれない。しかし、全ての人がお金持ちであるわけでもない。今後ロシアに限らず、世界が日本に描くイメージとのズレをどう解決していくのかが問題である。そうしないと、これからもこうした事件は一行に止まらないと私は考える。

最後に総括すると、松井さんの話を聞いて私は、非常に貴重な時間を過ごせたと思う。ただ、私がロシアに抱いたイメージは、正直なところマイナスの部分が大きかったのである。それでも、これはあくまで現時点のことであって、実際にロシアに行ったらプラスの部分も見つかるかもしれない。「百聞は一見にしかず」、話を聞いても実際に見ないと現実はわからないと私は思うのである。そのためにも、自分の目を大いに世界に向け、知識を高めるといった万全の準備を整えていきたい。